

2025
JANUARY

No.39

鹿児島大学 同窓会連合会報

磯海岸から望む桜島



特別
寄稿

SKLVセンターの現状とこれから

帆保 誠二（共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター長）

心豊かな未来を目指して!! ～ 継承・創造・交流・共生 ～

灰床 義博（鹿児島大学法文学部同窓会副会長・（NPO法人）コンソーシアム黎明理事長）

鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
- 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。
- 4 総会は、第1項に規定する役員の仕事の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第39号(令和7年1月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 冨永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された約12万人のOB、OGの皆様、国内および海外の各界でご活躍されていることとお慶び申し上げます。

前号(第38号)巻頭言でも述べましたように、鹿児島大学同窓会連合会は「鹿児島大学の全学部の学部や卒業年次を越えた縦横のOB・OGの絆を深める」とともに、母校鹿児島大学の教育・研究・就職活動に貢献する組織として2005年4月7日に各学部同窓会の連合体として設立され、これまで学部や卒業年次を越えた縦横の鹿児島大学卒業生の連携やキャリア支援セミナーの後援による在學生と卒業生の繋がりなどに貢献してきました。そして、今年2025年に「設立20周年」を迎えることになり、設立20周年記念事業について同窓会連合会幹事会に「鹿児島大学同窓会連合会設立20周年記念事業準備委員会」を立ち上げ、準備について検討を重ねてまいりました。

一方、鹿児島大学では2025年4月12日(土)に郡元キャンパスにおいて「ホームカミングデー2025」を開催することになりました。「ホームカミングデー」の目的は「同窓生、先輩・後輩と旧交を温め教職員と交流する機会」を作ることであり、鹿児島大学と卒業生相互の連携強化を具現化する取り組みであることから同窓会連合会としてもそれに共催して「鹿児島大学同窓会連合会設立20周年記念」の総会および懇親会を同日に開催すること、同窓会連合会報第40号(令和7年発行予定)を「鹿児島大学同窓会連合会設立20周年記念号」として発行することを令和6年第1回役員会において決定いたしました。

このような新しい取り組みを実施することは母校鹿児島大学と同窓会連合会の連携をますます深めるとともに、同窓会連合会の活動を広げ、さらなる発展に繋がるものと期待しております。是非、多くの卒業生の皆様におかれましても「ホームカミングデー2025」にご出席を賜り、発展著しい母校を含め、在学当時を回顧していただきますようお願い申し上げます。

今後とも各学部の同窓会が連携して、卒業・修了生だけでなく、現役の学生や院生の教育・研究・就職活動に対して積極的に貢献して鹿児島大学の名声を全国的に広げていくような活動をしていきたいものです。そのために、是非皆様のご協力と力強いご後援をお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますのご健勝と発展をお祈りいたします。

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 第39号会報(令和7年1月発行)に寄せて | 1 |
| 学長挨拶 | 2 |
| 鹿児島大学の近況 | 4 |
| 各学部同窓会活動報告 | 9 |
| 各支部の活動報告 | 18 |
| 特別寄稿(共同獣医学部、法文学部) | 19 |

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会の皆様方、新年あけましておめでとうございます。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜っており、厚くお礼申し上げます。

さて、私の学長としての第1期4年（令和元年度～同4年度）、第2期2年（令和5年度～同6年度）計6年間の任期も残すところわずかとなってまいりました。

6年間に渡り、至らないところも多くあったこととは思いますが、より良い鹿児島大学を目指し奮闘努力してまいりました。最近では大学に対する種々の外部評価が

発表されますが、それらの中での鹿児島大学に対する評価をまとめますと、「現在の鹿児島大学は地方国立大学の中でも、世界に伍する研究力を有し、社会貢献力に優れ、中でも地方創生や産官学連携などで成果を上げている」と言え、企業から見たイメージでは「卒業生の人間力が高い」との印象で「大学の取り組みも秀逸である」と考えられています。卒業生の皆様にとりましても誇れる母校としての評価に少しは近づいたのではないかと考えています。

学内限定公開の学長メッセージの昨年9月号は「北辰斜に」の題でした。同窓会連合会の皆様に相応しい稿です。転載させてもらい、私からの最後の挨拶に代えさせていただきます。

先日、福岡鶴陵会総会・懇親会に学長として出席し、35名の福岡県在住の鹿児島大学医学部医学科同窓会員の皆様と歓談してまいりました。最後は、皆で肩を組み定番の巻頭言付きの「北辰斜に」を高らかに歌って散会となりました。多くの鹿児島大学の現役サークルや同窓会などでは会の締めくくりはこの歌を歌うことが伝統となっており、また、いつの頃からか鹿児島大学の卒業式・修了式や入学式においても校歌のように毎年歌っています。

新制鹿児島大学の前身にあたる旧制第七高等学校造士館（七高：しちこう）では、毎年10月25日に開校記念祭が執り行われていましたが、「北辰斜に」は、大正4年（1915年）の第14回の記念祭のために作られた歌です。作詞にあたった築田勝三郎氏は当時20歳の七高の学生でした。「北辰」とは北極星のことで、北極星は北に行くほど頭上真上に見えますが、日本本土最南端の鹿児島では仰角が低い位置に見えます。「北辰斜にさすところ」とは、鹿児島が南国であることを強調して、北極星が斜めの方向に見えることを表現しています。1番と2番で鹿児島の風土として錦江湾の大海原や鶴丸城（七高の校舎が置かれていました）、そして吟ずる声も消えているような「静」の薩摩潟と東には火を噴く「動」の桜島を歌い、3番では沈み濁った世の中に向かい合う七高生の意気を示し、4番、5番にかけて、3番の「驂鸞（さんらん）」という元来、鸞（らん）という想像上の美しい鳥に乗って仙人が雲遊する姿を例えるものだった言葉を借り、学生たちの理想への雄飛そして光栄を歌い上げています。病を患っていた築田氏は、作詞の翌年に退学し、その後、24歳の若さで亡くなりました。しかし、「北辰斜に」は一世紀を超えて七高生と鹿大生に歌い受け継がれてきました。七高生が「北辰斜に」を集団で氣勢をあげて合唱する際は、一人が「巻頭言」を高らかに誦し、続いて「いざや歌わんかな北辰斜、いざや舞わんかな北辰斜。アインス・ツヴァイ・ドライ（ドイツ語の一・二・三）」で歌に移ったといひます。この巻頭言は、大正9年に清水氏あるいは大正15年に小野氏が作詞したとの考察がなされています。二十歳そこそこの学生達が、漢籍に通じる言葉を駆使して教養が溢れる格調高い七高生の心の琴線に触れる普及の名歌と巻頭言を作り上げたことを思いますと、鹿児島に集いし優秀で爆発的なエネルギーを感じさせる若者を思い起こさせます。なお、巻頭言に示された「橄欖（かんらん）の實」の橄欖は、元来インドシナ半島から中国南部に分布する樹木で、南方を代表する樹木です。オリーブとは似て非なるものです。聖書が中国語訳された際に、「オリーブ」の記載に「橄欖」の語句を誤って当て、日本にはその誤訳が伝わったため橄欖がオリーブと思われたと牧野富太郎博士の植物随想に記載しています。

第七高等学校造士館は、明治34年（1901年）10月25日、鶴丸城趾に開校記念式典が挙行され、昭和25年（1950年）3月31日、戦後の学制改革によって、その五十年にわたる光輝ある歴史の幕を閉じました。七高後身の新制鹿児島大学文理学部は昭和28年から33年にかけて鶴丸城址から郡元地区に統合移転し、鶴丸城址には昭和32年から49年まで鹿大医学部が置かれていました。現在、鶴丸城址・黎明館前庭には七高創立90周年を記念して平成2年に建てられた「北辰斜に」歌碑と巻頭言銅板および「北辰斜に」歌碑の向かいには平成27年に建てられた鹿児島大学医学部跡記念碑が立っています。

鹿児島大学関係者には、今後もこの素晴らしい「北辰斜に」を歌い続けていただけるよう祈念しましてこの稿を終えようと思います。



鶴丸城址・黎明館前庭にある「北辰斜に」歌碑と巻頭言銅板。 筆者撮影



「北辰斜に」歌碑の向かいの鹿児島大学医学部跡記念碑。由来文に「この地は第七高等学校造士館の跡地でしたので学生はそのことを誇りに思い、気分が高揚すると『北辰斜に』を歌い且つ舞い、近くにあった通称七高グラウンドではスポーツに汗を流し、青春を謳歌し天下国家を論じたこともありました」と記されている。

筆者撮影

巻頭言

流星落ちて住む^{ところ}處
 橄欖^{かんらん}の實^みの熟^うる郷^{さと}
 あくがれの南^{みなみ}の國^{くに}に
 つどいにし三年^{みつとせ}の夢^む短^みしと
 結びも終^はえぬこの幸^{さち}を
 或^{ある}ひは饗^{うたげ}宴^{えん}の庭^にに
 或^{せいや}ひは星^{せい}夜^やの窓^{まど}の下^{もと}に
 若い高^{たか}らふ感情^{かんじ}の旋^{まわ}律^{りつ}をもて
 思^{おも}いのままに歌^{うた}ひ給^{たま}え
 歌^{うた}は悲^{かな}しき時^{とき}の母^{はは}ともなり
 うれしき時^{とき}の友^{とも}ともなれ

北辰斜に

1. 北^{ほく}辰^{しん}斜^{ななめ}にさすところ
 大^{たい}瀛^{えい}の水^{みづ}洋^{よう}々^{よう}乎^こ
 春^{はる}花^{はな}かおる神^{しん}州^{しゅう}の
 正^{せい}氣^きはこもる白^{はく}鶴^{かく}城^{じょう}
 芳^{ほう}英^{えい}永^{えい}久^くに朽^{くち}せねば
 歴^{れき}史^しも古^{ふる}りぬ四^し百^{ひゃく}年^{ねん}
2. 紫^{むら}さむる黎^{しの}明^{のめ}の
 静^{しず}けき波^{なみ}に星^{ほし}数^{かず}え
 荒^{こう}涼^{りょう}の氣^きに咽^{むせ}ぶ時^{とき}
 微^び吟^{ぎん}消^{しょう}えゆく薩^{さつ}摩^ま渦^{うず}
 不^ふ屈^{くつ}の色^{いろ}も嚴^{おご}かに
 東^{ひがし}火^ひを噴^ふく櫻^{はな}島^{しま}
3. 悲^ひ歌^かに耳^{みみ}藉^かす人もなく
 沈^{しん}み濁^{にご}れる末^{すえ}の世^よの
 驂^{さん}鸞^{らん}の夢^むよそにして
 疾^{しつ}風^{ふう}迅^{じん}雨^うに色^{いろ}さびし
 古^こ城^{じょう}の風^{かぜ}に嘯^{せう}ける
 健^{けん}児^に七^{しち}百^{ひゃく}意^い気^き高^{たか}し
4. 南^{つばさ}の翼^{よく}この郷^{さと}に
 三^{みつ}年^{とせ}とどまる鵬^{ほう}の影^{かげ}
 行^{ゆく}途^とは万^{ばん}里^り雲^{うん}湧^わきて
 雄^{ゆう}圖^ともゆる天^{あま}つ日^ひや
 首^{かど}途^との昔^{さけび}叫^こにし
 理^ち想^{じょう}の空^{くう}に長^{ちやう}驅^くせん
5. ああ若^{こう}き日^{えい}の光^{こう}榮^{えい}は
 今^{じゅう}年^し十^{じゅう}四^しの紀^き念^{ねん}祭^{さい}
 祝^{こう}うもうれし向^{こう}上^{じやう}の
 旅^この衣^もに散^{さん}りかか
 樟^{くす}の下^{した}露^{つゆ}清^{きよ}らけく
 今日^{きょう}南^{なん}溟^{めい}の秋^{あき}にして

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

(2024年5月から10月までのトピックス)

※各タイトル末尾の【目標○】は持続可能な開発目標（SDGs）の目標を示す。

<ご支援に感謝>

鹿児島大学OB&OGゴルフ大会実行委員会より寄附をいただきました（5月17日）【目標17】

5月13日、鹿児島大学OB&OGゴルフ大会実行委員会の岩元善巳委員長、田代博文副委員長が本学を訪れ、第43回鹿児島大学OB&OGゴルフ大会の参加費の一部を賛助金として贈呈いただきました。同大会は4月14日に開催され、本学の卒業生をはじめ264人が参加しました。

賛助金の贈呈を受け、佐野学長は、「本学の教育・研究活動推進のために幅広く活用させていただきます。」と謝辞を述べました。

<学校行事>

令和6年度大学院連合農学研究科前期学位記授与式を挙行（10月2日）【目標4】

9月27日、連合農学研究科棟会議室において令和6年度前期大学院連合農学研究科学位記授与式を挙行しました。このほど、学位を取得したのは課程博士6名です。授与式では、北原兼文連合農学研究科長から出席者4名一人ひとりに学位記が授与されました。（略）

【課程博士6名】

○日本人2名 ○外国人留学生4名（スリランカ2名、中国1名、バングラデシュ1名）

<大学の取組み>

「THEインパクトランキング2024」総合ランキングで国内18位タイ、SDG17〈パートナーシップで目標を達成しよう〉で国内3位タイを獲得（7月10日）【目標1～17】

2024年6月12日、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）」が「THEインパクトランキング2024」を発表しました。鹿児島大学は昨年に続いてSDG2、SDG3、SDG9、SDG14、SDG15、SDG17の6つの目標にエントリーし、総合ランキングで401-600位（国内18位タイ）にランクインしました。

特に、SDG別ランキングSDG17〈パートナーシップで目標を達成しよう〉では昨年に続き国内3位タイという高い評価を得ました。また、SDG15〈陸の豊かさを守ろう〉で国内5位タイ、SDG2〈飢餓をゼロに〉SDG14〈海の豊かさを守ろう〉でも国内8位タイという高い評価を得ました。（略）

<課外活動>

陸上競技部が学長へ全日本大学駅伝対校選手権大会出場を報告（6月21日）【目標4】

6月19日、本学陸上競技部（顧問：塗木淳夫准教授）は、学長へ秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会への出場決定を報告しました。これは、6月2日に福岡県で行われた九州地区選考会において本学が1位となり、全国大会に2年連続、10回目の本大会出場を決めたことから行われたものです。

学生らは、賞状やトロフィーとともに優勝を報告し、選考会での勝因や日頃の練習状況、選手権に向けた意気込みなどを語り、陸上競技部で作成したダイジェスト動画で大会当日の様子も披露しました。

（略）

選手権は11月3日に熱田神宮西門前（愛知県）をスタートし、8区間106.8kmをたすきでつなぎます。今年も陸上競技部への応援をよろしくお願いします。

<施設関係>

外来診療棟・病棟（A棟）が開院（9月19日）【目標3】

鹿児島大学病院では、「21世紀に輝くヒューマントータルケア病院」を目指し、平成17年度から病院再開発計画に着手してまいりました。このたび、令和2年3月より着工した外来診療棟・病棟（A棟）が令和6年1月に竣工、9月18日に開院いたしました。

開院前日の9月17日には、記者発表を開催し、再開発計画の概要説明や質疑応答、施設見学等を行いました。

今後は、駐車場等の外構整備を行い、令和10年度に再開発整備全体が完了する予定です。（略）

<発見・表彰>

- (6/27) 博物館・連合農学研究科/日本初記録となるニザダイ科魚類を発見、「マジナイクロハギ」と命名【目標14】
- (8/6) 博物館・農林水産学研究科/日本に生息するアカエイ科のヤッコエイを新種記【目標14】
- (8/30) 博物館・連合農学研究科/日本初記録となるヨウジウオ科魚類を発見、「リュウキュウイシヨウジ」と命名【目標14】
- (9/6) 農学部宮田健准教授他/ラクトフェリンを利用した新規マラリア薬剤開発【目標1・3】
- (7/23) 農学部畜産科学コース4年生の石橋果歩さん/オーストラリア大学対抗ミートジャッジング競技会で部分肉・精肉部門で個人5位、団体2位、Overall Questions部門で団体優勝【目標4・12】
- (9/17) 連合農学研究科2年 古橋龍星さん/日本魚類学会年会「最優秀口頭発表賞」
連合農学研究科1年 出羽優風さん/日本魚類学会年会「優秀口頭発表賞」を受賞【目標4・14】
- (10/7) 工学部細海研究室（建築）/「世界遺産宗像 宗像みあれ芸術祭2024」神宝館賞を受賞【目標3】
- (10/8) 農林水産学研究科2年 有吉成志朗さん、農学部4年 井手雛子さん、吉川美季乃さん/第11回国際農業食料工学シンポジウム口頭発表およびポスター発表で優秀発表賞を受賞【目標1・2・3・9・12】

<ご参加ください>

2024年度後期「公開授業」受講生向けガイダンスを実施（10月18日）【目標4・5・16】

高等教育研究開発センター生涯学習部門では9月4日、郡元キャンパスにて2024年度後期「公開授業」の受講生を対象としたガイダンスを開催しました。

公開授業は、本学の正規学生向けの講義を一般の方に開放するもので、今回は151名・206科目のお申し込みをいただきました。

この日は10代～80代までの受講生が約2時間、同部門教員による「受講上の諸注意・スケジュール・実際の対面授業や遠隔授業の受け方」等の説明を受けました。（略）

ガイダンス後は大学内のキャンパスツアーも行い、授業開始に向けての準備を行いました。

今期は鹿児島県内各地のほか、県外からも遠隔授業へのお申し込みをいただきました。10月から半年間、1科目につき約15回の講義がスタートいたしました。部門スタッフ一同、皆さまの学びを全力でサポートしていきたいと思っております。

表敬訪問・視察（訪問日）

- (5/10) 中国 中南大学の易紅書記一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標17】
- (6/19) 駐日インド大使館よりシビ・ジョージ大使、サンジープ・マンチャンダー等書記官、チョン・ミヘン大使室職員が、佐野輝学長、郡山千早副学長（国際担当）を表敬訪問【目標17】
- (6/19) 台湾 国立宜蘭大学の呉 柏青（ウー・ポーチン）学長一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標17】
- (6/21) インドネシア パティムラ大学Fredy Leiwakabessy学長一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標17】
- (6/21) 中国 湖南農業大学謝 方平副学長一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標17】
- (7/31) 今枝宗一郎文部科学副大臣一行が医歯学総合研究科及び鹿児島大学病院を視察【目標3・4・8】
- (9/12) タイ タクシン大学Nathapong Chitniratna学長一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標4】
- (10/15) インドネシア アンダラス大学Efa Yonnedi学長一行が佐野輝学長を表敬訪問【目標4】

<以上、鹿児島大学ホームページから転載> ※ページ数の関係で一部抜粋して掲載しております。

【参考】持続可能な開発目標（SDGs）



鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算分より、年次決算の概要を情報開示しており、財務情報の詳細についてはホームページ (<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>) をご確認ください。

【参考資料（ホームページ掲載）】

「財務諸表の概説」

令和5年度成果・実績等の非財務情報や他大学の比較等により本学の状況をわかりやすく表記しております。

「財務のミカタ」

国立大学法人会計基準の概要等を取りまとめています。



令和5年度決算について

国立大学法人鹿児島大学の令和5事業年度財務諸表が令和6年8月30日付けで文部科学大臣から承認を受けました。

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。国立大学法人会計基準の概要等については、別紙で「財務のミカタ」でわかりやすく取りまとめておりますので併せてご確認いただければと思います。

また「財務諸表の概説」では財務情報に加え、令和5年度成果・実績等の非財務情報についても記載し、本学の状況をより分かりやすく表記するものとなっております。

本学の令和5年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が1,572億円、負債が570億円、純資産が1,001億円となっております。また、本学の令和5年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が529億円、経常費用が558億円となり、臨時利益及び臨時損失を含めると26億円の当期総利益となります。

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等の更なる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人鹿児島大学
理事（財務・施設担当）藤澤 亘

令和5年度 国立大学法人鹿児島大学 年次決算(概要)



貸借対照表
【期末時点の財政状態】

| | |
|---------------------|---------------------|
| 資産 | 負債 |
| 157,247 (+9,829) | 57,050 (+7,419) |
| | 純資産 |
| | 100,197 (+2,410) |
| | (内数) |
| | 当期末処分利益 |
| | 2,685 |

損益計算書
【一事業年度の運営状況】

| | |
|------------------------------------|-------------------|
| 経常費用 | 経常収益 |
| 52,929 (+633) | 55,829 (+477) |
| 臨時損失 700 (+410) | |
| 当期総利益 | 臨時利益 449(▲11,658) |
| 2,685(▲12,235) | 繰越積立金取崩等 36(▲11) |
| 利益の処分に関する書類 【未処理利益の処分内容】 | |
| 利益処分額 | 2,685 |
| (内訳) | 目的積立金 0 |
| | 積立金 2,685 |

決算報告書
【国の会計制度に準拠】

決算額

| | |
|------------|-----------|
| 収入 | 支出 |
| 66,249 | 64,192 |
| | 収支差 2,057 |
| (内訳) | |
| 外部資金収支差 | ▲404 |
| 翌年度繰越等 | 368 |
| 減価償却引当特定資産 | 2,093 |
| 目的積立金申請 | 0 |

- ※ 単位は百万円です(カッコ内は前年度増減)。
- ※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

■主な変動の要因

令和5年度は、外来診療棟・病棟(A棟)が令和6年1月に完成しました。また、教育研究の水準維持のために保有する資産(施設設備)の更新を行う資金を計画的に積立てる減価償却引当特定資産を計上しております。

【資産】

- ・外来診療棟・病棟(A棟)や入来牧場実験研究棟の完成により建物・構築物の増加(+13,030百万円)
- ・外来診療棟・病棟(A棟)等の完成により建設仮勘定の減少(▲5,314百万円)
- ・次年度以降の資産更新のための積立を行ったことによる減価償却引当特定資産の増加(+2,092百万円)

【負債】

- ・病院再開発に伴う借入金の増加(+7,649百万円)

【経常費用】

- ・診療報酬稼働額増加に伴う医薬品費等の増加及び光熱水費の高騰による診療経費増加(+1,229百万円)
- ・次年度以降の資産更新のための積立に伴う教育経費等の減少(▲563百万円)

【経常収益】

- ・手術件数の増加等による入院診療単価の向上等による附属病院収益の増加(+1,218百万円)
- ・病院の新型コロナに伴う補助金廃止により補助金収益の減少(▲1,207百万円)

【臨時損失】

- ・外来診療棟・病棟(A棟)等に伴う撤去費等

【臨時利益】

- ・過年度会計処理(資本剰余金等)の修正等
(令和4年度は会計基準改正に伴う資産見返負債の廃止に伴う収益化等があったため)

【損益等】

- ・当期総利益 2,685百万円(▲12,235百万円)

担当：鹿児島大学財務部財務課決算係 電話番号：099-285-7135 mail：kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿兒島大学からのお知らせ

～ 鹿兒島大学卒業生の集い～
ホームカミングデー 2025



鹿兒島大学同窓会連合会
20周年記念事業

キャンパスで
お待ちしております！



開催します!!



日時：令和7年4月12日（土）午後

場所：鹿兒島大学郡元キャンパス

農・獣医共通棟 101号教室

学習交流プラザ

主催：鹿兒島大学

共催：鹿兒島大学同窓会連合会

事前
予約制

ホームカミングデーとは…卒業生が「母校鹿兒島大学」に集い、母校の近況に触れ、懐かしい恩師や学友との交流・親睦を深めていただき、相互の連携と発展につなげていくために、大学と同窓会連合会の共催により初開催いたします。

申込方法等の詳細は各学部同窓会からご案内を予定しております。鹿兒島大学卒業生であれば皆さん参加できますので、多くの卒業生のご参加を心よりお待ちしております。

鹿大「進取の精神」支援基金に新しく 2つの学部等支援基金が設置されました!!

令和6年7月に、鹿兒島大学 SKLV センター基金
令和6年12月に、鹿兒島大学農学部基金が設置されました。
ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます

よろしくお願いします



鹿兒島大学 SKLV センター基金

畜産・獣医技術者の教育研究の充実や研修に関する事業等を支援します。

対象事業

1. 畜産・獣医技術者の教育研究の充実に関する事業
2. 畜産・獣医技術者の研修に関する事業
3. その他 SKLV センター基金の目標達成に必要な事業

鹿兒島大学農学部基金

農学分野の教育研究支援や国際交流促進、施設及び環境の整備充実に資する事業等を支援します。

対象事業

1. 農学部等の教育研究の充実に関する事業
2. 農学部等の国際交流の促進に関する事業
3. 農学部等の施設及び環境の整備充実にに関する事業
4. その他農学部基金の目標達成に必要な事業

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和6年度法文学部同窓会宮崎県支部総会開催

令和6年10月19日(土) 午後5時30分から「ホテルメリージュ」で令和6年度法文学部同窓会宮崎県支部総会が開催されました。田原新一宮崎県支部会長、灰床義博法文学部同窓会副会長の挨拶の後、令和5年度の活動報告、収支決算報告、令和6年度事業予定及び収支予算が示され満場一致で承認されました。引き続き「最近の金融経済情勢」のテーマで日本銀行宮崎事務所の川畑正憲所長（H4年法学科卒）の講演がありました。

懇親会に移り、会員の自己紹介、近況報告等があり、最後に「北辰斜に」を斉唱してお開きとなりました。なお、出席者は24名でした。

2. 令和6年度法文学部同窓会福岡地区支部総会開催

令和6年10月26日(土) 午後5時30分から「福新楼」で令和6年度法文学部同窓会福岡地区支部総会が開催されました。中島繁樹福岡地区支部会長、原口一陽法文学部同窓会副会長、山本一哉法文学部副学部長の挨拶がありました。山本副学部長には「国際的な視点から見た日本経済の盛衰」のテーマで講演をしていただきました。グラフや図式により日本経済の欧米経済と比較した国際的な現状の説明があり、大変意義深い時間を持つことができました。

総会では、「令和5年度決算承認の件」及び「令和6年度予算承認の件」について田中事務局長が内容を説明し、その後決議において満場一致で承認可決されました。

懇親会では、参加者に自己紹介及び近況報告をしていただき、また全員で「北辰斜に」の寮歌を歌い最後に集合写真を撮り閉会しました。なお、出席者は14名でした。

3. 第23回鹿大北辰(文理・法文・理学部卒業生)ゴルフ会コンペ開催

令和6年10月19日(土) 第23回鹿大北辰(文理・法文・理学部卒業生)ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。

当日は早朝から雷雨で実施できるか心配でしたが、2時間ほど遅れてスタートしその後は雨にも降られず、全員事故もなくプレーをすることができました。なお、23名の参加でした。

優勝は昭和50年、理学部卒の平啓博さんでした。ベストグロスの堀之内勇さんは、ハンデがマイナス1.2となったためネットがグロスを上回る結果になりました。成績は以下のとおりです。

| | | | |
|--------|------------------------|-----|---------------|
| 優 勝 | 平 啓博 (S50年、理学部卒) | ネット | 73.2 |
| 2 位 | 今原 和郎 (S50年、法文学部経済学科卒) | ネット | 74.8 |
| 3 位 | 上 健二郎 (H5年、法文学部経済学科卒) | ネット | 75.4 |
| 4 位 | 清永 裕介 (H元年、法文学部法学科卒) | ネット | 75.8 |
| 5 位 | 堀之内 勇 (H2年、法文学部法学科卒) | ネット | 76.2 (HD-1.2) |
| ベストグロス | 堀之内 勇 (H2年、法文学部法学科卒) | グロス | 75 |

* 次回は令和7年4月26日(土)、南国カンツリークラブです。(2月から変更になっています。) 多数の参加よろしくお願ひします。なお、今回から会長が成清次男さんに代わりました。申し込みは成清会長(携帯090-4510-2187)か南国カンツリークラブ(電話099-243-1121)まで。

第27回 教育学部同窓会「教岳会」総会・懇親会 ～同窓生の絆を噛み締めて～

連日35度を超える猛暑の中、8月4日(日)、鹿児島サンロイヤルホテルにおいて、令和6年度(第27回)同窓会総会・懇親会が開催された。新型コロナウイルス感染症拡大も収束の兆しが見え、通常の対面開催に、70名の同窓生が参集した。

昨年度、同窓会設立25周年事業の一つとして、同窓会の名称を、公募により「教岳会」とした。今回は、この愛称のもと、教育学部で学んだ仲間の絆をより深める同窓会となった。

1. 同窓会総会

総会の会長あいさつでは、東寛治会長から、同窓会設立25周年事業の報告や後継者育成のための事業などの紹介があった。続いて、寺床勝也教育学部副学部長のあいさつ(学部長あいさつを代読)、鹿児島県教育委員会次長 紺屋宏昭様から祝辞をいただいた。

協議では、令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度活動の基本方針・事業計画・予算が承認された。その他、「同窓会運営協力金」のお願いや「第2回教岳会ゴルフ大会」の案内があった。ゴルフ大会は、25周年記念行事として行われたが、今後、同窓会員ふれ合いの場として、恒例行事になるのではないだろうか。

役員選出では、東寛治会長が名誉会長へ、久保正和副会長の会長への就任が承認された。また、改選に伴う役員の異動や新役員の就任についても了承された。

2. 講演

総会のあと、「鹿児島大学教育学部の現状から見る今後の教員養成の展望と課題」という演題で、溝口和宏教育学部長に、VTRでご講演いただいた。令和の日本型学校教育や新しい鹿児島の教員養成指標に対応できる「教職の資質能力の見直し・履修カルテの改訂」を行ったことや、教員の確保・能力発信の取組として、教員免許状保持者向けの「学校教育キャッチアップ講座」や高校生向け教員養成プログラム「Pathway To Becoming a Teacher」の紹介があった。

また、今年度4月に、大学全体の教員養成や教員研修等の事業を統括する「教師教育開発センター」が設立され、大学全体で教職を志望する学生を増やし、就職率の向上に繋げるということも紹介された。

3. 懇親会

総会終了後、会場を別間に移し、懇親会を開催した。

今回は、昭和56年度卒業生が担当した。世話係代表の児玉泰男氏の開会のあいさつ、久保正和新会長のあいさつに続いて、同窓会の歌「我が友よ」を全員で歌い、肥後昌幸氏(肝属支部世話役)の乾杯のご発声で開宴した。乾杯のあと、同窓生の絆を噛み締めて、食事を取る間もなく旧交を温める会話で大いに賑わった。

2時間の懇親会も、下戸勝一氏(曾於支部世話役)の万歳三唱、次年度世話係代表(57年卒業)の四反田撮史氏のあいさつで、盛会のうちに終わった。



懇親会



昭和56年度担当者受付

同窓会連合会関東支部総会等出席のご報告

理学部同窓会南明会 副会長
山下 茂久 (昭52年・数学)

去る令和6年10月19日(土) 13時からTKPガーデンシティPREMIUM秋葉原で開催されました同窓会連合会関東支部の総会・懇親会に、南明会代表幹事の有馬一成さんとともに参加して参りました。コロナの影響もあって、実に7年振りの開催ということで、鹿児島大学本部からは各理事の先生方を始めとして、各学部長の先生方も来ていらっしゃいました。ただ、同窓会連合会からの参加が少なかったことは残念でしたが、理学部同窓会の存在はしっかりアピールできたように思いました。井戸筆頭理事からは鹿児島大学の直近の様子が紹介され、鹿児島から遠く離れている関東在住の会員の皆様にも鹿児島大学の現状が伝わったようでした。理学部同窓会からは関東支部の古川会長を始めとして10人程が参加しており、久しぶりの再開を果たしました。

懇親会では、大学時代の思い出話に花が咲きました。会の半ばで、参加者が倒れるという事態が発生し、理学部同窓会からの出席者であることが分かりました。救急車が出動する事態となりましたが、幸いにも意識が戻って大事には至りませんでした。そのような中、司会者の方が「この中にお医者様はいらっしゃいませんか」と呼びかけていらっしゃいました。本会へは医学部同窓会から多くの医師が出席していらっしゃいましたので、結果適切な処置がなされたことも幸いでした。緊張した雰囲気が少々和みました。

懇親会が終わった後、南明会の会員は場所を移して、これからの同窓会活動について話し合いました。総会の開催に合わせて、鹿児島で卒業生と学生による座談会の開催を計画する運びとなりました。卒業生の方々は、鹿児島から遠く離れていても鹿児島と鹿児島大学に思いを寄せてくださっていて、そういう熱い思いが伝わって来ました。ぜひ実現させ、これを機会に定期的な開催とし、卒業生の思いが学生に伝わっていくことを期待しております。

引き続き、鹿児島大学および鹿児島大学同窓会連合会のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部同窓会

医学科同窓会鶴陵会

—献血について思うこと—

2024年4月から鹿児島県赤十字血液センターで献血の健診医を不定期で務めています。輸血療法では以前の様な「全血輸血」を行うことはほとんどなく、「成分輸血」が行われています。輸血用血液製剤には、主に「赤血球製剤」、「全血製剤」、「濃厚血小板製剤」、「新鮮凍結血漿」や「血漿分画製剤」があり、「血漿分画製剤」にはアルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤などがあります。これらを医療者側は必要に応じて発注し、日本赤十字社は全血献血、成分献血などで頂いた血液からこれらの製剤を作ってゆきます。外科医であったときは手術の予定を立て、必要な輸血用血液を発注すること、発注した血液が注文通りに届くことが当然のように思っていました。しかし、その血液を準備する側に回るとこれが如何に多くの方の努力と献血をされる方の善意に支えられているかを改めて認識しております。さらに全国的に新型コロナウイルス感染症の影響で10代から40代の献血者数の減少傾向が続いているそうです。鹿児島県の統計でも16歳から29歳の若年層の献血は14.8%であるのに対し、50歳から69歳までの年齢層では45.2%、40歳以上69歳まででは69.4%、7割近くに及びます。鴨池の血液センター・天文館献血ルームでの献血だけではなく、企業・自治体などの献血協力組織のご支援で各地に献血バスが出動しますし、鹿児島大学、鹿児島国際大学、鹿屋体育大学、第一工大などには学生の献血支援グループがあります。健診医として参加した経験では若者が沢山献血を申し出るというような状況はありません。献血を呼びかけても献血車を避けて行く様な印象です。最近のネット報道では消化器外科医が少なくなりつつあり、手術待ちの時間が長くなると報道されていますが、輸血事業もこのまま若者の関心が薄れたままだと、輸血をしたいが血液がないという状況も生まれそうです。新入生のオリエンテーションで献血の尊さを訴えるつもりです。（数値は鹿児島県赤十字血液センター2023年度事業年報から引用）

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松英夫）

保健学科同窓会

先日、九州理学療法士学会に参加しました。PTになり23年目、ポスターセッションの座長を拝命し新人のような気持ちで久しぶりに参加しました。会場では自分より明らかに若いPTの先生方が沢山参加されており、月日の流れを感じました。

学会の抄録を見ると、恩師やお世話になった先生のお名前があり、さすがと思うと共に、知っている卒業生の名前があると、なんだかうれしい気持ちになります。そんな卒業生の肩書は立派になっており、勝手に誇らしく思ってしまう。そして先輩としてまだまだ頑張らんといかん、と励みになります。また座長の前に、後輩の卒業生が声をかけてくれるとなんだか緊張がほぐれました。恥ずかしいやらうれしいやらでしたが、久しぶりに会うと気分が高揚してよいモチベーションとなり無事に座長を務めることができました。

今回の学会では、大学の同期生も3名参加しており久しぶりにミニ同期会を開催できました。家族や仕事の話で盛り上がり、学生時代に戻った感じとなり大変有意義な時間を過ごすことができました。

理学療法学専攻の卒業生も20年以上で400名以上となり、臨床、研究、教育、企業のそれぞれの現場で実績を積み出世している卒業生も増えてきました。現役生にも多様な理学療法士の働き方を示すことを同窓会として協力できたらと思う学会参加となりました。

国立大学における理学療法士の養成校では、近年卒業後理学療法士として勤務する割合が下がってきていると聞いております。鹿児島大学ではそのような傾向はみられていないと伺っておりますが、それが良い悪いということではなく、理学療法士の魅力を実習だけでなくもっと伝える役割を同窓会が担うべきであろうと感じております。

後輩たちに負けないよう、魅力ある会長として、そして現役生や卒業生に必要とされる同窓会としてもっと可能性を広げていきたいと思っております。これからも同窓会の役割や可能性を今回の会でも話し合い、実りのある会にしていきたいと思っております。

（文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎雅司）

歯学部同窓会

現在の歯学部同窓会執行部は、谷口浩太郎を会長として2年目を迎えました。1年目は新しい執行部になり、現況での様々な問題点を整理し対応をしてきました。2年目はそれをふまえて、より安定した財源の確保を模索しつつ事業内容の充実に努めております。今年歯学部同窓会は発足40周年となります。派手に周年事業の開催を考えたところですが、まずは同窓会運営の安定化が必要です。歴代会長のここまで築かれてきた同窓会に敬意を表しつつ、今回は対外的な周年事業は行わずに内輪でのお祝いに留めることとしました。次の50周年は大きな区切りとなるので、対外的な事業もできるよう余力のある同窓会を目指していきます。

○ 主な活動

令和6年

- 4月 鹿児島大学O.B.&O.G.ゴルフ大会参加
- 6月 九州デンタルショーブース参加
- 7月 令和6年度第1回評議員会
鹿児島大学歯学部教授会との協議会
- 8月 第6回南九州歯学会
- 10月 九州歯科医学大会参加（沖縄）
- 10月 歯学部同窓会会報誌33号発刊

○ 活動紹介 第43回鹿児島大学O.B. & O.G.ゴルフ大会参加

今年度のO.B.&O.G.ゴルフ大会は、令和6年4月14日に蒲生カントリークラブで開催されました。

当日は鹿児島市議会議員選挙の投票日と重なってしまいましたが、総勢264名の参加者があり、歯学部からも24名が参加しました。

歯学部は昨年久しぶりの団体戦優勝を手に入れましたが、なんと今年も優勝！連覇を果たすこととなりました。現会長がゴルフ大好きのせいか、調子に乗ってしまってます。来年の第44回も3連覇できるようがんばります！

なお、今回の大会参加費の中から、15万円が賛助金として鹿児島大学に贈られました。大会の始まった1982年より続けられており、41回目になるそうです。



工学部同窓会

令和6年度前期の活動について報告します。

1. 第41回鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会・懇親会

令和6年6月8日(土)に大分県支部総会・懇親会が大分センチュリーホテルで開催されました。昨年度4年ぶりに開催され、今年度も無事開催することができました。今年度は13名のご出席でした。

支部長の代理として郷之原豊幹事が開会の挨拶を述べ、工学部同窓会本部から出席した井手工学部同窓会会長、下茂南窓舎密会会長のご祝辞のあと、渡辺高行幹事長の挨拶を皮切りに、大学の現況や学生の就職、学生生活の状況、かつての大学の状況などについても懐かしく皆で話が盛り上がりました。その後、参加者全員の自己紹介やスピーチなどを交え、楽しい歓談のなかで、巻頭言とともに「北辰斜に」を皆で合唱して、今後の皆様の健康とご活躍を願いながら盛会のなかで会を終了しました。



2. 令和6年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会・岸園賞選考会・司会

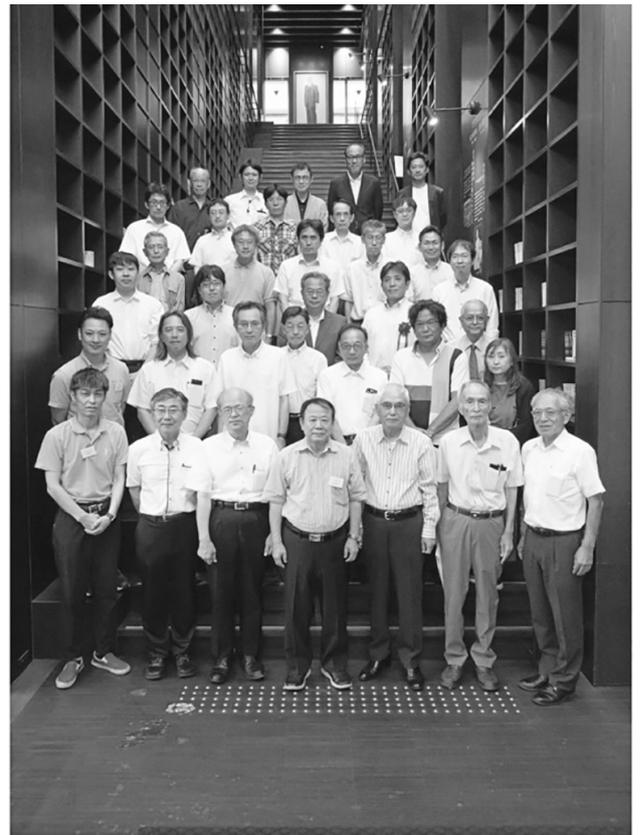
令和6年8月23日(金)に、学習交流プラザの学習交流ホールおよび鹿児島大学稲盛記念館のヴェジマルシェ'19で開催されました。

○拡大幹事会：昨年度の運営報告と今年度の運営計画について審議し、満場一致で了承されました。

また、博士後期課程学生の支援事業について議論され、継続審議となりました。

○岸園賞選考会：「岸園賞」は、寄付者の岸園司氏のご遺志である「鹿大発展を、工学部同窓会の発展を」という理念の下、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものです。昨年度に続き今年度も推薦がありませんでした。

○第10回司会：本年は37名の出席となりました。木方工学部長から挨拶と最近の工学部の取り組み、理工学研究科の新専攻設立について紹介がありました。その後、令和4年度の岸園賞受賞者である熊澤機械工学プログラム准教授の講話があり、萩しらなみ会会長の音頭で乾杯し、歓談しました。参加者の親睦を深める良い機会となりました。



鹿児島大学工学部同窓会 第10回司会
令和6年8月23日 於：Vege Marche`19

農学部あらた同窓会

「地域支部およびクラス会」等の活動

「農学部あらた同窓会」には各県・地域・職域や学科・研究室単位で同窓生の集り（「〇〇あらた会」等）があり、それぞれ総会・懇親会活動を行っており、「あらた同窓会」本部の活動の活性化に寄与しています。ここでは、令和5年度（あらた同窓会の会計年度：10月1日～9月30日）に開催されたそれらの活動について紹介いたします。概略については「あらた同窓会HP（<https://aratadousokai.org/>）」に速報（お知らせ）で掲載し、「あらた同窓会報春季号（毎年3月25日発行）（<https://aratadousokai.org/newscat/newsletter/>）」にも寄稿していただいています。

1. 第52回（令和5年度）「熊本あらた会」総会：令和5年11月24日（金）に43名で開催。総会では新会長に村田達郎氏（農S51）が選出されました。「あらた同窓会」からは顧問の寺岡行雄農学部長による「鹿児島大学農学部の近況報告」があり、最後は、古田要一副会長（畜S60）に締めていただきました。



熊本あらた会集合写真

2. 令和5年度（第72回）広島あらた同窓会総会：令和5年12月9日（土）に11名の出席で開催。懇親会は平野朝彦会長（林S38）の挨拶、来賓の寺岡農学部長の挨拶と乾杯で始まり、最後は、田丸猛副会長（蚕39）の挨拶で締め、散会しました（写真はあらた同窓会HP）。



福岡県庁あらた会集合写真

3. 令和5年度福岡県庁あらた会：令和6年2月3日（土）にOB、現役職員併せて51名の出席で開催。笹川文彦会長（農S63）の挨拶、「あらた同窓会」の富永常任副会長の「あらた同窓会や鹿児島大学農学部の近況報告」の後、松本博之先輩（総農S37）の乾杯の音頭で開宴、2時間余りの歓談の後、出席者全員で肩を組んで「北辰斜に」と「鹿児島高等農林学校校歌」の大合唱、そして、井上尊尋先輩（農S39）の万歳三唱で、盛会のうちに閉会しました。



鹿児島市役所あらた会の模様

4. 鹿児島市役所あらた会総会・懇親会の開催：令和6年2月5日に4年ぶりに開催。出席者は例年より少なく51名でした。総会では、猿川博久会長（農工S63）と濱田典雄副会長（農工S61）が選任され新体制がスタートしました。懇親会では抽選会も開催し、抽選結果に一喜一憂しました。「あらた同窓会」からは富永常任副会長が出席しました。



関西あらた会出席者寄せ書

5. 「関西あらた会」の設立：関西地区のあらた会としては、これまで「近畿あらた会」、「兵庫あらた会」が積極的に活動し、毎年合同の「地区同窓会」を開催してきましたが、近年出席同窓生の高齢化・固定化等が進んだために、前年の総会で「両地区あらた会」を発展的に合併し「関西あらた会」とすることとし、令和6年5月26日に設立総会を開催しました。初代会長に秋吉博之氏（化S55）、副会長には嶋田雅之氏（獣S58）、常任幹事には瀬戸口恒夫氏（環H7）を選出しました。「あらた同窓会」からは寺岡農学部長がご出席され母校の近況をご紹介いただきました。

6. 「岡山あらた会」の開催：令和6年6月2日に「岡山あらた会」を5年ぶりに開催しました。参加者は寺尾国一会長（工S55）はじめ5名でしたが、今春岡山県庁に就職した遠藤大知君（農生R6）も出席してくれました（写真はあらた同窓会HP）。

7. 令和6年度「おせんしの育珍会」の開催：農学科植物育種学研究室の同窓会「育珍会」の会員のうち“おせんし（大人）”の部にあたる「おせんしの育珍会」を令和6年7月12日に出席者12人で開催しました。萩典宏（農S37）育珍会々長から三宅泰郎（農S43）新会長にバトンが渡されました。来年の開催は“おせんし”の年齢を考慮して、暑くない気候の良い5月に開催することが決まりました（写真はあらた同窓会HP）。

水産学部同窓会魚水会

『もどっきゃんせ DAY2024』 (Home Coming Day2024) 開催

(水産学部を卒業して40年、魚類市場一筋、マルハニチロ系列の九州中央魚市(株)の
鹿児島の実務者の山口博久取締役副本部長に講演していただきました)

令和6年12月4日(水) 水産学部と同窓会魚水会での共同開催の【もどっきゃんせDAY(Home Coming DAY2024)】を開催しました。講演会の講師として、水産学部を卒業以来、40年近く魚類市場一筋に勤務し、数多くの経験をされているマルハニチロ系列の九州中央魚市(株)の山口博久取締役副本部長(水産学部・昭和62年(1987)卒)に講演をお願いしました。午後4時半から水産学部23号大講義室にて、島津時代から延々と続く鹿児島魚類市場の歴史などを織り交ぜて、魚類市場の現状と将来の展望を多数のOB、業界関係者、大学生、大学院生などの参加者にお話ししていただきました。島津家久時代に遡り、1615年に許可された納屋魚市場のこと、新しい場所に移転後の現在、3代目の魚市場はHACCP対応であることなど興味深い内容でした。40年間いろいろ経験されたことなどユーモアを交えて熱く話され、満員の参加者も時間を忘れて聴き入ってくれました。



『もどっきゃんせDAY2024』懇親会

講演会に続き、左近充浩一魚水会事務局長の進行で西隆一郎学部長の挨拶に始まり、当日わざわざ出張先の東京から駆け付けてくれた魚水会愛媛県支部の住田富重支部長の乾杯の音頭で開宴し、学生(飲酒の関係で3年生以上)、OB、業界関係者、教職員と懇親を深めました。

宴もたけなわの中、校歌、愛唱歌「おいらの船は300トン」などを歌い、最後は今でも元気なカッター部OBの横田榮佑氏(昭42増卒)の一本締めでお開きとなりました。いつものように魚は会員からの寄付、OB有志で魚を捌きました。学生さんは無料、その他の方々の会費は1,000円で実施しました。



※もどっきゃんせDAY (Home Coming Day) とは水産学部と魚水会共催で年に1回、卒業生、在学生、教職員との交流を深める為の企画で魚水会の経費により実施しています。前々回は令和元年(2019)11月20日(水)に東日本大震災で甚大な被害を受けて、奇跡的に復活した岩手県の小野食品(株)の小野昭男社長(昭54食)、それ以前は東京都中央区新川で食品卸の大京食品(株)の窪田洋司氏(昭32製)などにご講演いただいています。昨年(令和5年(2023)12月6日(水))の講演者は、住宝丸活魚運搬株式会社 代表取締役社長 住田 富重氏(昭57航海・58専)でした。

共同獣医学部紫友同窓会

令和6年度紫友同窓会評議員会を下記の日程で開催しました。

日時：令和6年7月14日(日) 17:00より

場所：[HINATA] 鹿児島市東千石町3-41 キャパルボ3階

1. 議事

- 1) 新役員について
- 2) 令和5年度事業報告、決算について(監査報告)
- 3) 令和6年度事業計画、予算(案)について
- 4) その他

2. 報告事項

- 1) 共同獣医学部の現況
- 2) 同窓会連合会報告
- 3) その他



- 共同獣医学部紫友同窓会のホームページの開設 (令和5年8月)
<https://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/graduate/class/>
(学部HP表紙上段の「卒業生の方」をクリック)
- 共同獣医学部紫友同窓会の事務局メールの開設 (令和6年7月)
shiyu_dousoukai@vet.kagoshima-u.ac.jp



各支部の活動報告

【関東支部】

鹿児島大学同窓会連合会関東支部活動報告

日頃より関東支部同窓会活動に多大なご協力・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

関東支部では令和6年10月19日(土)14時より「第5回鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会」(定時総会・記念講演会・懇親会の3部構成)を「TKPガーデンPREMIUM秋葉原」で開催いたしました。各学部同窓会支部会員をはじめ大学本部及び同窓会連合会役員並びに公益社団法人三州倶楽部や鹿児島市東京事務所からのご来賓など170名の参加者となりました。

定時総会では、以下の4つの活動方針が決定されました。

1. 鹿児島大学及び同窓会連合会本部・支部並びに関係団体との連携及び協力
2. 学部別同窓会間の交流及び連携の推進
3. その他本会の目的に沿った事業活動
4. その他事業活動

「その他事業活動」では、会員参加型勉強会・イベントの開催や関東支部事務所開設の検討など同窓会活動の活性化に向けた課題に取り組んでいくことになりました。

また、今村彬会長に代わり郷原剛事務局長(法文・59年卒)が新会長に選任されました。

記念講演会では、井戸章雄筆頭理事より「鹿児島大学の現状と課題」の演題でご講演いただきました。スライドを交えたわかりやすい内容で、大学の高い評価などをご説明いただき、参加者一同、母校に対する誇りを持ったことと思います。

懇親会は、公益社団法人三州倶楽部吉國浩二会長のご発声により開会し、大学、鹿児島市や焼酎メーカーなどよりご提供いただいた焼酎などを堪能し、「鹿児島の香り漂う大抽選会」、尺八演奏の余興、坪地宏昌氏により「北辰斜に」の吟唱と続き、片山賢治副会長の中締めの挨拶で3年後の第6回総会での再会を誓い閉会いたしました。

(文責：郷原剛)



総会の様子



懇親会の様子



集合写真

【福岡支部】

福岡支部総会 福岡「北辰斜の会」2025にむけて！

令和6年2月17日(2月第3土曜日)に開催した福岡支部総会 福岡「北辰斜の会」2024については、会報38号で報告させていただいたところです。

3月16日には総会で焼酎を呑み足らなかったことを反省し、博多駅近くの居酒屋「肴やだんじ」で幹事会(反省会)を行いました。

次に、7月6日には福岡「北辰斜の会」宗会長のお膝元小倉の「さつま路」にて恒例の暑気払いの幹事会を開催しました。

続いて、10月12日には令和7年2月15日(土)開催の福岡「北辰斜の会」2025の開催要領の決定と各同窓会幹事の役割等の確認のため、博多駅そばの酒房「八州博多店」にて13名の役員・幹事による幹事会を開催しました。ここでは、次回総会の参加者を60名から80名に増やすことを確認しました。たくさんの同窓生の参加を頂いて、焼酎を酌み交わし、今まで以上に縦横の繋がりができることを幹事一同期待しております。

同窓生皆さんの参加を心よりお待ちしております！

◀特別寄稿▶

SKLV センターの現状とこれから

共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター長
帆保 誠二

鹿児島県曾於市と鹿児島大学は、内閣府や日本中央競馬会の協力の下、曾於市旧財部高校跡地に南九州畜産獣医学拠点（SKLV（スクラブ））を設置し、畜産学や獣医学に関わる実践教育を実施しています。また、本学は令和5年9月30日に全国の畜産学及び獣医学を学ぶ学生を主な対象とした実践的な畜産獣医学教育を提供する教職員組織である「共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター（SKLV（スクラブ）センター）」を設置しました。

SKLVにおける実習は、畜産学・獣医学を学ぶ学生に対して、施設内外で飼養される動物（牛・馬・豚・鶏）を用いたSKLVセンター教員による管理・衛生指導や診療等を通じて提供するものであり、動物衛生学や産業動物臨床獣医学に必要な実践的な知識・技能を習得させることを目的としています。併せて、SKLVセンターは、農業共済組合・獣医師会・自治体等との連携活動を通じて、家畜共済事業の役割、家畜診療所や家畜保健衛生所等の業務について理解させることにより、将来の産業動物獣医師の確保に資することを目的としています。

SKLVセンターには、常勤教員5名、常勤事務員1名及び兼務教員4名が配置されており、多角的な臨床実習研修カリキュラム（牛・馬・鶏・豚ベーシックコース（総合コース）、牛専修コース、馬専修コース、衛生専修コース）を、学年や学生の希望により提供しています。

現在のところ、全国の獣医系大学から53名の学生を受け入れ、少人数での5日間にわたる実践的な実習を提供しています。本年度内の受け入れ学生数は130名程度となる見込みです。また、畜産従事者を主体としたSKLVセミナーを多分野にわたり開催し、現時点で400名を超える受講者を受け入れています。

これからのSKLVセンターは、以下の項目を中心として、動物福祉に配慮したモデル農場の機能拡大と教育研究内容の高度化を目指して躍進しますので、多角的なご支援をお願いします。

【肉牛農場】ICT・AI技術を活用した牛監視システムの開発普及

【馬農場】生理機能モニタリングや歩様解析システム等を導入し、リハビリテーション施設の機能を付加

【専門教育】実習プログラムを高度化し、全国畜産獣医学部生を対象に魅力的な産業動物体験型実習を提供

【産業動物獣医師養成】長期滞在型実習者への宿泊費支援を目的に基金設立

【地域獣医診療】鹿児島県獣医師会およびNOSAIと連携した産業動物二次診療施設の設置

【教育支援】教育学部と連携したSTEAM事業

【交流人口拡大】鹿大ブランド肉の販路開拓、畜産関係者の施設視察・研修・修学旅行等の受入、カフェレストラン・乗馬施設を活用したイベント開催（SKLVそとと協力）



講義の様子

臨床に携わる教員による実例を交えた講義により、知識の向上を目指します。



実習の様子

動物を用いた実践的な実習により、技術の鍛錬に努めます。

▶特別寄稿◀

心豊かな未来を目指して！！ ～ 継承・創造・交流・共生～

鹿児島大学法文学部同窓会副会長
(NPO法人) コンソーシアム黎明理事長
灰床 義博

皆様、こんにちは。

昨年（令和6年）7月3日（水）、日頃一緒に様々な取組を進めている方々と（NPO法人）コンソーシアム黎明（以下、「C黎明」）を設立しました。

現代社会は、人類の活動が原因とされる地球温暖化などの気候変動・危機などにより「人新世」とも呼ばれる厳しい時代状況にあります。また、世界で話されている言語のうちの約40%が消滅の危機にある（国内でも「奄美語」など8言語が「消滅危機言語」に指定）とされています。

そのような中で、グローバル化・情報化の急速な進展や価値観の多様化、急速に進行する少子・高齢化なども背景に、国内では多彩な地域性の象徴と言える伝統文化・芸能の消滅の危機ということにも繋がっています。

県内に目を転ずると、鹿児島県の伝統文化（島唄・薩摩琵琶など）は、昔から大切にされてきた県民共有のかけがえのない“宝”であると同時に、我が国の音楽文化の中でも、地域の精神を反映した独特の存在である“宝”として位置づけられるものですが、その保存、次世代への継承が危惧されています。

さらに、少子・高齢化が急速に進み、労働力不足が指摘されている中、労働者の確保という面のみならず、地域社会の活力の維持・向上のためにも、外国人住民の地域定着が重要な課題となっています。

このような時代状況の中で、伝統文化については、まずは県民自身が、その存在を知り、価値を学び、自ら保存・継承していくとの考え・合意に至ることが必要であると考えています。

また、外国人住民には、日本語教室への参加を促すとともに、日本人住民との「やさしい日本語」による会話、交流イベントなどを通じ、相互理解を深め、多文化共生社会の実現を目指すべきであると考えています。

併せて、以上のことについて、社会・経済情勢の現状・課題・将来イメージなども含め、その背景や地域社会の有り様などについて、学びを広く、深くしていくことが肝要であると考えています。

このような認識の基、これまでの私自身の取組を始め、C黎明副理事長の犬下郁子さん、理事の原田敬子さん、楠元香代子さんのそれぞれの取組を4本柱（黎明会事業、多文化共生事業、伝統文化継承事業、美術・音楽等国際交流事業）として、プラットフォーム的な共通の基盤となる組織を立ち上げ、監事を笹川理子さんをお願いし、将来に向け継続・発展させていくことを目指したいとの思いからC黎明を設立したところです。

C黎明においては、鹿児島県の歴史・文化・暮らしなどの過去・現在・未来について興味・関心を持つ人々に対して、学び、継承する取組を行い、もって鹿児島県の伝統文化などの次世代への継承に寄与するとともに、県外への発信に努め、活発な文化的交流の促進に努めたいと考えています。

また、このような取組を基礎にしながら、美術・音楽等を通じた国際交流に努めるとともに、日本語を母語としない人々に対し日本語教育を行うことなどにより、国際理解・協力を促進し、多文化共生社会の実現に寄与することにも努めたいと考えています。

なお、以上の取組の私自身のベースになるのは、鹿児島県庁勤務（黎明館館長を含む。）などでの経験・知識・ネットワークなどを最大限に活かしながら、「進取の精神」（本学の理念）、「フォー・アザーズ」の精神（母校の鶴丸高校の校是）、「利他の心」（稲盛和夫京セラ名誉会長）を大切にすることであると考えています。

C黎明の取組に興味・関心をお持ちの皆様は、
HP（URL <https://c-reimei2024.mystrikingly.com/>）を御覧の上、
メール（アドレス c.reimei2024@gmail.com）いただければと思います。
皆様の御理解と御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ鹿大生2024」

◎日時 2024年12月7日（土） 14：30～17：00

◎場所 学習交流プラザ2F 学習交流ホール

【ゲストスピーカーの皆さん】

木村 健介氏 2009年 法文学部卒業／三井物産株式会社
ありま ゆき氏 2007年 法文学部卒業／エフエム鹿児島
叶 拓斗氏 2008年 農学部卒業／農林水産省
前原 真朗氏 2009年 法文学部卒業／鹿児島県庁
辻本 彩乃氏 2010年 人文社会科学研究科修了／NHK宮崎

2024年12月7日（土）、学習交流プラザ2階学習交流ホールにて、『卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ鹿大生2024」』（主催：鹿児島大学キャリア形成支援センター、協力：鹿児島大学同窓会連合会）が開催されました。開催10回目を迎えた今回は、先輩の卒業生5名をゲストスピーカーとしてお迎えし、在学生44名が参加しました。

久木田キャリア形成支援課長の開会宣言の後、プログラムの案内とゲストスピーカーの紹介があり、続いて、各ゲストスピーカーから自己紹介として「学生時代に取り組んだこと」や「現在の仕事内容」などがスライドを用いて紹介されました。後輩たちへの熱い思いのあまり自己紹介の時間が予定時間を超えてしまい、グループワークが1つになるというハプニングもありましたが、それぞれ自分の言葉でわかりやすく伝えてくださり、充実した日々を過ごされていることが伝わってきました。

休憩を挟んで、グループワーク「将来自分が叶えたい夢、実現のために必要なこと」が開始され、学部も学年も様々な区分けの7グループに分かれて20分ほど、テーマに沿って活発な意見交換を行っていました。ゲストスピーカーも、各グループを周って議論に耳を傾け、時にはアドバイスを行っていました。

あっという間に時間は過ぎ、時間の都合で代表して5グループがグループワークの内容を報告しましたが、各グループとも話し合いの進め方から検討するとともに、それぞれの現状を冷静に把握し、今後の学生生活や就職活動についてしっかりと意識していることが伝わってきました。「コミュニケーション能力」や「実行力」、「経験」などの言葉が多く発せられ、ゲストスピーカーからは、「固執せず、幅を持たせて」など自分の経験談を踏まえたアドバイスが送られました。

休憩時間にもゲストスピーカーへ質問を行う学生の姿が見受けられましたが、続いて行われたゲストスピーカーへの質問コーナーでも、3名の学生が積極的に質問を行い、ゲストスピーカーも的確なアドバイスで応えていました。

最後に、ゲストスピーカーの5名からセミナーの感想や後輩学生へのエールが語られました。今回のゲストスピーカー5名は、皆さん30代後半ということもあり、仕事や家庭などの環境も踏まえて、次のステップを意識しつつ生活されているように感じました。就職はゴールではなく、また次の始まり…。学生時代にしかできないことにチャレンジして欲しい。その想いは参加した学生だけでなく、当日、この原稿作成のために参加していた私をも新鮮な気持ちにさせてくれました。

初参加のゲストスピーカーには、“鹿児島大学名誉キャリアサポーター”の委嘱状が渡されましたが、このセミナーに参加した学生が、いつかゲストスピーカーとして後輩に話をする、そんな日も近いかもしれません。

鹿大生、頑張っています！！

在学生だけでなく、日々頑張っている素敵な卒業生が居ることも、同窓会連合会の先輩方には是非知っていただきたい…そう思った一日でした。

県内だけでなく遠く関東からも駆けつけてくださったゲストスピーカーの方々、本当にありがとうございました。卒業生と在学生が繋がるこのような貴重な機会を、少しずつでも増やしていけたらと思います。



ゲストスピーカー紹介



グループワークの様子



(文責 同窓会連合会事務局)

第44回鹿児島大学OB・OGゴルフ大会の開催

全国総合大学でも珍しい恒例の全学部鹿児島大学OB・OGゴルフ大会は昨年も全国のOB・OGが参加して盛大に開催されました。

この大会は第1回より鹿児島大学長が会長になり鹿児島大学の大きなイベントの一つです。第44回大会も全国からたくさんの同窓生のご参加をお待ちしています。

※今年の開催は次のとおりです。（今年から毎年4月の第3日曜日に決定）

◎日時：令和7年(2025) 4月20日(日)

◎場所：鹿児島蒲生カントリークラブ（0995-52-0381）

（セルフプレー又はキャディ付OK、各学部実行委員までお問い合わせください）

◎予定参加人数：300名

詳細は1月17日（金）付け南日本新聞紙上より複数回掲載します。

◎学部別実行委員

水産学部：TEL 286-4080 FAX 286-4080（鬼丸）

農学部：TEL 282-2266 FAX 282-2266（平）

共同獣医学部：TEL 254-7947 FAX 254-7947（鶴田）

医学部：TEL 812-1133 FAX 812-1677（上野）

法文・理学部：TEL 254-7111 FAX 254-7101（青木）

教育学部：TEL 296-9602 FAX 296-9603（児玉）

歯学部：TEL 286-6480 FAX 286-4484（濱崎）

工学部：TEL 285-7032 FAX 285-7032（瀧田）

本部職員：TEL 285-7715 FAX 285-7721（西元）

◎同窓会連合会事務局（総務部総務課基金・渉外係）

TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854（平日8：30～17：15）

Email：kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

（同窓会連合会のホームページもご覧ください<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>）

※この大会は44年前の第1回開催時より毎年、参加費の一部を賛助金として母校の鹿児島大学に贈呈し学生への支援を続けています。



鹿児島・蒲生カントリークラブ、桜島コース1番ホール

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@dent.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@aratadousokai.org

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL 099-285-8731
e-mail shiyu_dousoukai@vet.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

